



平成30年度収蔵品展

岩崎家と丹波

2018年6月2日[土]～7月16日[月・祝]

開館時間＝9:00～17:00(入館受付は16:30まで)

休館日＝毎週月曜日(7月16日は開館)

入館料＝大人300円／学生(高校生以上)200円／小人100円

※幼児および南丹市内在住・在校の小・中学生は無料 ※20名以上の団体は2割引
 ※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳・戦傷病者手帳を持つ方
 とその介護者は半額

【展示協力】京都丹波岩崎革也研究会

南丹市立文化博物館

〒622-0004 京都府南丹市園部町小桜町63番地 / TEL: 0771(68)0081 FAX: 0771(63)2983



●自動車…京都縦貫自動車道「園部IC」「八木西IC」より約5分。園部公園駐車場をご利用ください。 ●電車・バス…JR 園部駅下車、園部駅西口より京阪京都交通バス「八田線」もしくは「園籬線」に乗車、「交流会館前」下車すぐ。または、市営ぐるりんバスに乗車、「図書館前」下車すぐ。園部駅から徒歩の場合は約30分。

- ◎京都丹波岩崎革也研究会による連続講演会 6月16日[土] 13:30～、7月7日[土] 13:30～ 会場：南丹市立文化博物館内(要入館料)
 [6/16] ①「岩崎革也関係史料保存の取り組みの経過と課題」原田久氏 ②「岩崎革也の生涯と活動概要」芦田丈司氏 / [7/7] ①「岩崎革也と大逆事件・社会主義者・著名政治家」奥村正男氏 ②「岩崎革也の須知町長・府会議員としての活動、地元への貢献」田中仁氏
- ◎ミュージアムトーク(学芸員による展示解説) 6月10日[日]、6月30日[土] ※両日とも13:30から1時間程度



須知町と鐵道 山
 陰園部郡より阪鶴線(條山)に至る鐵道(定線)は通過地點が明確に判らないが或は厚氣村を経て須知町に達するとの説があるけれども須知町は近傍一町六村の中心であり同地方物産の集散地であるから同町を經なければならぬ事は事理明白だから左様決定せられたいざして同町長岩崎平造氏等十名が連署衆議院へ提出した請願は十五日同院諸議第四分科會に上程採擇さならず政府へ送考として送付するに決した(東京電話)三月十七日 大阪毎日抄



岩崎家と丹波

丹波須知の岩崎家は、代々にわたり酒造業を営み、屋号は絹屋と号しました。近世期では須知村などの村役人をつとめる一方で、周辺にも土地を所有し、領主である亀山藩よりは名字帯刀を許された有力な農民でした。明治期に入ると須知銀行設立の中心となり、大正期には頭取に就任した岩崎革也が各地に支店を開設して、地域の経済発展の一翼を担いました。また、革也は須知町長や京都府会議員を歴任する政治家としても活動し、道路やダム建設、須知小学校の改築などに尽力しています。なお、革也は社会主義に共鳴したことにより、堺利彦や幸徳秋水をはじめとする諸氏と交流して財政的な援助を行っていたことでも知られます。

このような歴史を有する岩崎家の邸宅が、京都縦貫自動車道の用地となり、平成25年10月に解体されました。邸内には堺や幸徳らの書簡をはじめ、犬養毅や田中正造が揮毫した扁額などの資料が残されていましたが、同年9月、現当主である岩崎長氏より当館へ寄贈いただきました。

今回の展示会ではこれらの資料を紹介しながら、岩崎家と丹波地域との関わりについて考えたいと思います。また、堺や幸徳ら社会主義関係者から革也に宛てた書簡類は、彼らを研究する上で貴重なものとなっており、この機会に多くの方々にご覧いただければ幸いです。



①



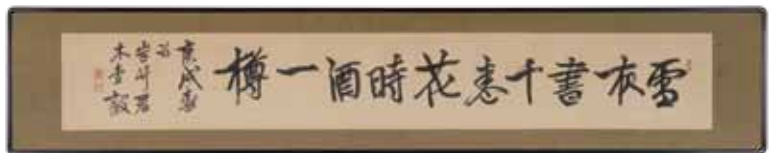
②



③



④



⑤



⑥

南丹市立文化博物館

〒622-0004 京都府南丹市園部町小椋町 63番地 / TEL: 0771 (68) 0081 FAX: 0771 (63) 2983

【掲載図版】<表面>上段：須知銀行重役行員記念写真（前列中央が革也）／昭和12年8月、下段左：岩崎平造等の請願書提出を報じる大阪毎日新聞／大正11年3月17日、下段中：解体前の岩崎邸／平成25年9月、下段右：須知小学校本館／昭和10年10月 <裏面>左：大滝貯水池築造工事／大正14年5月、右：①須知小学校全景／昭和10年10月、②革也が記した日記帳、③請願書／大正11年2月、④幸徳秋水の死刑判決を伝える堺利彦からの電報／明治45年1月、⑤犬養毅「雪夜書千卷花時酒一樽」／明治43年、⑥須知銀行京都支店開業広告／大正10年7月